

JR連合「あるべき労働組合像」Part 3 言うことと、やることが正反対！

JR連合「あるべき労働組合像・労使関係像」には、所々正しいことが書かれています。いくつか列記してみましょう。

①「組合員のお互いの信頼を高め、弱い者、困った者を守り、助け合う」②「あらゆる暴力、人権の蹂躪、個人の尊厳を傷つけたり否定する行為を行ってはならない」③「労働組合の本分は弱い者の助け合いであり、働く者すべての暮らしを良くする」④「中小、非正規労働者など弱い立場、恵まれない環境にある者への取り組みを強化」⑤「地域・社会への働きかけとして、…平和活動も重要」などです。

ところが、JR連合がこの間やってきたことは、上記と正反対のことばかりです。具体例を出しましょう。①京都駅で「勤務成績不良」を口実に解雇されり、静岡駅で長期「日勤教育」と退職強要され退職を余儀なくされた組合員を助けようとしたのでしょうか？この間JR東海・西日本を中心に自殺した人は、ほとんどJR連合の組合員ですよ。②無実の美世志会や加藤誠二さんに罪をなすりつける行為はどう説明するのでしょうか？人格を否定する「日勤教育」になぜ賛成なの？③組合員間に格差をもたらす賃金・昇進制度を積極的に賛成して、よくもそんなことが言えますね。④年越し派遣村などに対し、何をしようとしているのでしょうか？そもそも規制緩和に賛成したのではないですか。⑤「反戦・平和は過激派のやることだ」と言ったのはどこの誰でした？「国防こそ最大の福祉だ」というのは、平和ではなく軍拡運動ですよ。ここまでウソを並び立てるとは、「詐欺師」同然です。

〈次号に続く〉

**表向きは弱者救済、
内実は権力者の言いなり！**